

## 「第2回活性化部会」整理メモ

## 観光

## 現状と課題について

- ・ 観光の根幹にあるのは京都市民のライフスタイル
- ・ 人を育てることについて京都の人は協力的
- ・ 町の商店など身近な観光資源が、後継者が居ないため無くなっていく。京都らしい観光を考えた際に、どういう産業をバックアップするのも課題
- ・ 基本インフラ、公共的な施設は見劣りする。5,000人規模の会議場が国際会議には必要

## 政策の基本方向について

- ・ 広域的な視点で京都はどのような役割を果すのかを考えなければならない
- ・ MICEの誘致のため、国際会館、岡崎界わいも手を入れるべき
- ・ 観光は、市民全てがステークホルダー
- ・ 生活文化、文化的な価値と産業の間にうまく橋をかけながら、京都の新たな活力を生み出していく産業政策を、基本計画に盛り込んでいきたい
- ・ 国際会館の増築を京都全体で後押しすることが必要。国際会館の界わいを世界にアピールできるような活性化
- ・ 寺、ホテルなどでファンドをつくり、観光やまちづくりに使える仕組みが必要
- ・ 祇園祭など伝統文化の継承に携わりやすくするサポートが必要
- ・ 市民や市民以外のファンの方にも協力いただくような企画力が大事
- ・ 京都の魅力である地域の祭を維持するため、学生にも積極的に参加してほしい
- ・ 京都の子どもたちに、京都の魅力を教えることが大事。市民の誇りの醸成
- ・ 日本中の人々が寄付したいと思うような魅力的なプロジェクトが大事
- ・ 多くの取組がごく自然にあるのが京都の特殊性。サポートが観光受けするところだけにならないよう配慮が必要
- ・ 京都市が広域的な観光をリードするという観点で施策の構築を
- ・ 京都市民が生活している場の景観の維持という視点が必要
- ・ 京都の文化的なポテンシャルは非常に高いが、それをどう伝えるか

## 市民と行政の役割分担と共汗について

- ・ 京都市民もおもてなしの力を高め、市民と観光事業者が中心となって進めていくことが、量から質の時代にあっては重要。行政は少し後ろに下がって、経済界、市民、行政の役割を明確にし、分担して一緒にやっていくことが重要
- ・ 生活文化に関わる産業全てが循環の中で観光につながっているという認識を持たなければ、観光は、観光事業者だけの話になってしまう

## 10年後に目指すべき姿について

- ・ 全ての市民がコンシェルジェになるような都市が最も質の高い観光都市

## 大学、国際化

- ・ 京都は「学生のまち」だが「若者のまち」ではない。学生は卒業したらみんな出て行ってしまう
- ・ 生活費は学生にとって切実な問題
- ・ ボストンやパリは姉妹都市であるが、ボストンやパリに行ってもそれが知られていない
- ・ 市民レベルの国際化はあまり進んでいない

- ・ 京都にいるメリットが必要。寺社仏閣、コンサート、歌舞伎などが安く見られればプレミアムになる
- ・ 町家やニュータウンの空家に学生に安く住んでもらえば空家の対策にもなる
- ・ 大学そのものだけでなく、生活環境も考えていかなければならない
- ・ 学生、外国人、通学の人、短期滞在の人、永住の人など京都との関わり方は様々。出身地のアイデンティティは持ちながらも、京都の一市民として誇りを持って生きていけるような、そういう観点が必要
- ・ 歴史都市連盟の取組を通じ、歴史・文化に関しても何らかの発信をすべき
- ・ いつの間にか大学に来なくなる学生が心配。心のサポートが必要なとき、地域の方々が声をかけるようなことがあればよい
- ・ 巫女さんや仲居さんなど、京都ならではの、留学生がアルバイトしやすい仕組みが、観光、大学と連携してうまくできればいい
- ・ 外国人のサポート拠点を国際交流会館だけでなく分散化できないか
- ・ 欧米からの観光客が多いので、京都に住んでいる英語圏の留学生を使った外国人向けの観光案内所を設けてはどうか
- ・ 「いつでもコール」の英語版があればと思う
- ・ 市民レベルの国際化を進めるために、国際的なイベントがもう少し京都で開かれればとよい。観光の分野とも連携する

- ・ 国際化について、一部の市民だけが頑張るのではなく、市民が広く取り組むようアピールすることが必要